

【泉区】令和2年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年 2月 5日 午後2時01分 ~ 午後3時45分
場 所	泉区総合庁舎4階 消防署会議室
出席者	<p>【座 長】源波 正保 議員</p> <p>【議 員：3人】梶村 充 議員、麓 理恵 議員 横山 勇太朗 議員</p> <p>【泉 区：34人】額田 樹子 区長、鳥海 仁 副区長 松浦 淳 福祉保健センター長 村田 二郎 福祉保健センター担当部長 山根 好行 土木事務所長 森田 清 泉消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 令和元年台風15号及び台風19号における対応と課題について</p> <p>(2) 令和元年度泉区区民意識調査について（報告）</p> <p>(3) 道路整備事業の進捗状況と今後の取組について</p> <p>(4) その他</p>
発言の 要 旨	<p>1 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>梶村議員：住むなら泉区を目指すのは結構だが、現実にはどう影響しているのか。一生懸命取り組んでもらっているのはわかる。交通の利便性もある。平成26年の人口は15万5千人だった。今年、国勢調査も実施する。そこでわかる部分もでてくるだろう。その辺を区民意識調査と一緒によく分析してほしい。中田は増えているが、和泉町が不便と聞いている。バスの需要もあるので、区内循環バスも考えなければいけない。泉寿荘やスポーツセンターなどのいろいろな施設があり、中田の人たちは行くのに苦労している。立場から中田さちが丘線に向かうルートなど、道路局の地域交通サポート事業とタイアップして実施してほしい。</p> <p>額田泉区長：前回の会議でも同じ指摘があった。しっかり分析をすることについては、区民意識調査や、前回の国勢調査がベースになっている各</p>

町別のデータもあるため、いろいろなデータを基に精査や検討をしていきたいと思う。何よりも交通利便性というのが、住みやすさには大きなファクターとなっていると思っている。確かに、区内を循環するような乗り物ができるといいと考えているところだが、現実的にはバス会社は人手不足で、今の状況を維持するのも厳しい状況と聞いている。バス事業者に限らずに乗合タクシーやほかの交通手段も含めて、検討していきたい。もうじき、ゆめが丘の開発も進むため、そういったところで人口増に結び付けていけたらと思っている。相鉄線もJRとの直通は今年の11月に開通し、3年後の東急東横線との直通では新横浜まで行けるとするのは非常に大きなメリットになる。その時には二俣川駅乗り換えではなく、いずみ野線から乗り換えなしで行ける、というのも聞いており、そういったメリットをアピールしていきたいと考えている。引き続き協力をお願いしたい。

梶村議員：それはぜひお願いしたい。

深谷通信所跡地について、内容はわかってきたが現実には進んでいない。その辺は私も応援するが、ただはらっぱに陸上競技場を造ってもしようがない。三ツ沢公園に匹敵するような西部地区のスポーツの殿堂のようなものを目指してもらいたい。地下に備蓄庫を造るなどして、陸上競技場を造るにしても、サッカー場を造るにしても、三ツ沢公園に劣らないようなものを目指してほしい。

額田泉区長：今年度から環境影響評価に関する調査を始めているところ。令和2年度に配慮書と方法書、その後準備書という形で環境影響評価に関する手続きと並行して、都市計画に関する手続きを進め、令和3年度末には都市計画決定する予定となっている。そこで公園と公園型墓園と外周道路という形になる。特に公園に関しては魅力のあるものにしていくということで、地元の方とも色々なご意見を幅広く聞いて、所管局にも強く伝えていきたいと思っている。

梶村議員：防災対策事業にある外国人避難者用のコミュニケーション用の機材とは、どのようなものか。最近では何か国語も翻訳してくれる機器が出ている。自分も利用しようか考えている。

岡本総務課長：おっしゃるような翻訳機を導入し、必要な際に各避難所へ持って行き、コミュニケーションツールとして活用する予定。

栗竹地域力推進担当課長：外国人とのコミュニケーション機器について

は、別途国際局へ予算要求している。最近ではスマートフォンのアプリケーションもあるため、予算をやりくりしながら配慮していきたいと考えている。

梶村議員：予算は、人についてという意味か。

栗竹地域力推進担当課長：多文化共生事業では、区役所1階の多文化共生コーナーに配置される人員の人件費が計上されている。機器類の予算については資料には掲載していないが、コーナーの人件費予算とは別に、国際局の予算として計上されるものがあるため、局と相談をしながら実現させていきたい。

梶村議員：ひきこもりについて、泉区ではどうなっているのか知りたい。

80歳の方が50歳のひきこもりに困っているという話は聞かないか。

会澤生活支援課長：8050問題について、やはり各年代でひきこもりの問題を抱えていることは、承知している。現在、福祉保健センターの各課で相談を受けており、報告をもらうことになっている。泉区生活支援課での受付人数は、平成30年度は39歳以下が2名、40歳以上が4名の計6名、令和元年11月までは、39歳以下が12名、40歳以上が9名の計21名となっている。やはり、マスコミ等の話を受け、敏感に反応して、相談につながっていると考えられる。

梶村議員：気を配って対応してもらいたい。50歳でひきこもりになると親も大変なので、ぜひよろしくお願ひしたい。

麓議員：定住・転入促進事業について、見せていただいた動画ではいい感じに泉区の田舎感が出ていていいなと思った。インスタグラムのプレゼントが当たるキャンペーンについて、以前にも話をしたと思うが、せっかく泉区の紹介をするなら泉区のを景品にしてほしかった。ただ、腐らないものと考えると難しいので、例えば区内の商店街で使える金券や障害者施設のイベント時の買い物で使えるものなど、泉区に関わった景品であってほしかったな、と思う。

長井区政推進課長：まず第1回目ということで、キャンペーンを実施させてもらった。今後も引き続き実施したいと考えているので、意見を反映できるように考えていきたい。

麓議員：ぜひ検討してほしい。

交通の利便性が高まったことを好機に、とあるが、梶村議員が話した

ように、駅までどう繋げていくかというところまでフォローしないと
いけないと思っている。泉区内では地域交通サポートで実際に行われ
ているEバスが浮かぶ。それ以外で実証に取り組んでいるところや計
画しているところはあるか。

長井区政推進課長：新橋から弥生台地区の交通システムが検討に入っ
ている。タクシー事業者を使って試験的にできないかを道路局も入れて
検討している。

麓議員：他にはないのか。

長井区政推進課長：緑園都市についても、地域の協議会を立ち上げてい
る。緑園都市から二俣川へ行くバスを相鉄が朝と夕方に運行しており、
ダイヤを増やせないか、交通事業者を通して意見交換をしている。

麓議員：泉区は山坂が多い。利用者が多くなければいけないと、最初から
あきらめ気味な声も届いていたりする。だからこそ必要と思っている
ので、地区懇談会等で向こうから声が出るのを待つのではなく、区役
所も一緒になって検討していただきたい。

深谷通信所跡地について、公園型墓園に難色を示していたところも
大分ご理解をいただけるようになったと聞いている。公園型墓園の予
定される場所は当初示された辺りと考えていいか。

矢口政策局基地対策課長：場所については当初示した通りの場所を予定
している。今進めているのは、ボーリング調査等の土質調査をしてい
る。それが終わり次第、設計や環境影響評価など、令和3年度の都市計
画決定に向けて動いている。

麓議員：周辺の方から湧き水を守ってほしい、環境保全に取り組んでほし
いという意見をたくさんいただいている。地元説明を含めて、丁寧に取り
組んでもらいたい。

防災拠点を見に行くと、子育て世代の方の参加が少ないと思ってい
る。地域防災の担い手支援事業である「体験型アトラクション」や「防
災プログラム」とは具体的にどのようなものか。

岡本総務課長：他の区でも実施しているように、ふれあい祭り等での実施
を考えており、実際の災害時取るべき行動を親子で学びながら体験
できるアトラクションを考えている。また、子育て世代へは、アウトド
ア用品を用いた防災プログラムを計画しており、必要なスキルを親子
で考えられるようなものを、まちの防災組織の人たちと検討を進めて
いるところで、来年度は地域の皆さまと一緒に研修会を行っていく。

麓議員：新型肺炎のニュースが連日報道されているが、泉区は高齢者のいる施設が多くある。施設からマスクや消毒液が足りないなどの連絡は来ていないか。

塗師高齢・障害支援課長：今のところ、来ていない。多少の備蓄もされていると思われるので、今後は入荷の状況も見ながら、必要に応じて施設へ確認し対応していく。

斎藤福祉保健課長：1月29日以降、外部から相談があった件数について、統計を取り始めた。今日の午前中までで合計17件となっている。ほとんどの方の相談内容が、個人的に中国の方と食事をした、発熱があり心配だ、という内容だったため、診療所を案内している。今週に入り、春節を終えて日本へ戻ってくる中国籍の方に熱があり、医療機関にかかった際、医療機関から確認の意味で連絡が入ったと聞いている。福祉保健課へも施設からの衛生用品に関する相談は今のところない。

横山議員：はらっぱの土地は行政の土地なのか。

小澤地域振興課長：行政の土地や、民有地のこともある。民有地の場合は契約を結び、借りている。一方で、相続が発生し、広場・はらっぱの契約を解除したいという申し出があった際、遊具が設置されている場合は横浜市で撤去している。

横山議員：位置づけとして公園なのかを確認したかった。予算を見ると前年から下がっている。1か所20万円にも満たない金額だと思うが、砂の補充やネットの設置など要望があるため、柔軟に対応してもらいたい。

脱温暖化行動啓発事業にある緑のカーテンについて、これは土木事務所で実施しているものか、区役所の西側にあるものなのか。

長井区政推進課長：区民の方にゴーヤの種などを配布し、自宅で育ててもらっている。また、その育てた緑のカーテンの写真を撮っていただき、コンテストに応募してもらい、景品をプレゼントしている。

横山議員：種を配って景品を渡すことで予算の53万円を使っているということか。

長井区政推進課長：主な支出としてはその通り。

横山議員：感震ブレーカー等設置推進事業について、総務局は補助か助成

を行っているのか。

岡本総務課長：感震ブレーカーについては総務局で補助を行っている。

横山議員：中田の南の方、戸塚区に跨ぐ地域は、非常に気になる地域なので、区独自でも予算化して補助を出してもいいのではないかと認識している。感震ブレーカーは相当効果が高く、電池も使わないことから電源も不要。煙探知機のような定期的な交換が不要で、ただぶら下げるだけと聞いている。いつ壊れてしまうかは別として、設置することに意味があるのではないかと。来年度の予算化は厳しいにしても、その翌年度の予算で、区独自として総務局の上乗せとして計上できないか。

額田泉区長：感震ブレーカーについては、泉区では設置が進んでいる。総務局が行う感震ブレーカーの補助の事業は条件が厳しく、そういった中で泉区は昨年度と一昨年度に局の事業にプラスアルファをするような形で、条件を緩和させて地元の方へアピールをしていた。それを見て総務局の方も条件を緩和し、対象エリアであれば希望が通るような形になっていた。総務局の補助が追い付いてきたので、区独自の補助制度は終了した状況になっている。

横山議員：和泉川健康みちづくり事業について、農家の方の中には知らない人に農地周辺を歩かれるのは嫌だという方もいらっしゃる。ベンチや小休止するためのスペースを作っていくのであれば、その辺のことも踏まえて、設置前に自治会町内会等とよく説明をし、合意を取り、皆さんが困らないような対応を取ってほしい。

洞澤土木副所長：ご指摘のとおり、人が多く通ることが想定される。当然、周辺の方々への影響があるため、昨年10月頃に地域の方々や、個別に単会会長や連合自治会長へ説明を行った。さらに、水辺愛護会の活動やハマロード・サポーターの活動をされている方がいらっしゃるのと、その方々も含めて、先日、どの辺にベンチを作ったらよいか、など意見を聞くために一緒に道を歩いた。その時の意見を踏まえて、具体的にどう整備をしていくのかを計画し、周辺の方々へ説明していきたいと考えている。

源波議員：先ほど見せてもらった動画について、ちょうどいいという表現があった。生産緑地の30年指定は、10年延長が可能になった。どういった意向を持つ農家が多いのか。

長井区政推進課長：区では把握できていない。環境創造局では個別に調査をかけており、どのような考えか調査をしているので、環境創造局へ確認する。

源波議員：市街化区域の中の農地ということで、ちょうどいい街づくりをしていく中で、よく考えてもらいたい。そして、引き続き発信もしていただきたいと思う。

深谷通信所跡地のスポーツ施設については梶村議員と同じ思いだ。旧上瀬谷通信施設の国際園芸博覧会は、横浜市全体で盛り上げていくイベントだ。台湾では複数個所で行っていた。深谷通信所跡地もサブ会場として位置づけられたら色々な意味で盛り上がるのではないかと考えている。また、ネーミングについてはみなとみらい21のように公募して、住民の皆さんといいネーミングをつけてほしい。その名前を聞くだけでぱっとわかるようなものを実現できるのであればお願いしたい。

母子保健コーディネータの2人目の配置が予算案に反映されてよかった。

2 その他

(1) 令和元年台風15号及び台風19号における対応と課題について

梶村議員：台風15号と19号の対応、よくやってくれたと思う。19号の後に大雨が降ったと思うが、被害はなかったか。

岡本総務課長：特に被害はなかった。

梶村議員：遊水池等を見て回ったが、水かさが増していたので気を付けてほしいと思う。また、ゴルフ場の柱について、2つの台風でそれぞれ壊れたと認識しているが、確認してほしい。

岡本総務課長：ゴルフ場の写真については台風15号の時に倒れたもので、既に折れ曲がったものは撤去しているため、こちらの危険性は全てなくなっている。

梶村議員：右側の方と左側の方と折れた時期が違うのではないか。写真はすべて右側の部分が載っている。

岡本総務課長：こちらはすべて台風15号の被害で折れたもので、その時に撮影した写真を載せている。左側については確認する。

梶村議員：西田Aの雨水調整池について、車は入れるようになっているのか。

洞澤土木副所長：以前から地域等から有効利用したいという要望があり、今はスロープ部分について駐車場としての利用を許可している。今現在、雨水調整池の土砂を一部撤去・移動する工事を行っており、工事が終了すると、約2,500㎡の雨水調整池のうち、約半分くらいは駐車場として利用できるようになる。工事は今年度末までかかってしまう。

梶村議員：その雨水調整池の中には、人間が入れるほどの太い下水管があり、雨水が大量に流れてくる。かなり水かさが増すと聞いているので、車が埋まることのないよう安全面には気をつけてほしい。

麓議員：2回にわたっての対応、お疲れ様でした。広報についてTwitterやJアラート等あるが、ホームページやTwitterはどれくらいの人が見ていたのか、統計は取っているのか。

岡本総務課長：申し訳ないが、カウント数については把握していないため、確認する。

麓議員：課題にも書かれていたように、区民の皆さんが地域防災拠点と風水害の際の避難所とを混同している。実際に広報してもらったところで、それがどれだけ有効に使われているのかをもう一度確認してもらいたい。

横山議員：停電の問い合わせは大変だったか。

岡本総務課長：大変だった。

横山議員：携帯電話が普及してきたからこそ起きたと思う。昔は固定電話で、電気がなければ電話することができなかった。電話が多い時は、それを想定して人員なり、体制を強化していかなければと思う。入電が多すぎて電話に出られない状況だったのか。

鳥海副区長：電話が取り切れなかったというのはなかったと思う。かなりの数の電話をいただいたが、動員した職員で対応させてもらった。停電対策としては、今は情報収集として携帯電話を使うことが多いことから、携帯電話の充電を行えるような給電機が各区に配備され、日産自動車株式会社との協定により、電気自動車は各区貸与される予定であることから、充電できるよう、対応を検討したい。

岡本総務課長：停電時の電話対応については、東京電力からどのように情報をもらうかを市の検討会の中でも検討している。また、区のホームページに東京電力のホームページをご確認ください、といったメッセージを掲載したところ、そこから若干ではあるが問い合わせが減ったという状況があった。

梶村議員：停電中ではホームページは見られないのではないかと。

岡本総務課長：携帯電話で確認することができる。また、避難場所については、新しい生活・防災マップに風水害時の避難場所の項目も付け加え、避難所へ避難を考えている場合は、区役所ホームページをご確認ください、という記載をした。また、次回発行する生活便利帳についても、風水害時の避難について記載する予定である。様々な広報を通じて啓発を図っていく。

源波議員：災害時の要援護者について、例えば介護認定を受けてケアプランを1人1人に作成すると思うが、その際に避難場所も含めて状況に応じた避難場所を決めるのがいいと思うが、見解はどうか。

塗師高齢・障害支援課長：今のところ、ケアマネジャーや訪問看護師等と相談して、それぞれの発災時の防災拠点や風水害時の避難場所はそれぞれ周知していると思うが、間違った場所に行ってしまうと大変なので、再度丁寧に説明をしてより一層周知ができるようにしていきたいと思う。

源波議員：まだ国での検討段階だが、泉区でも最初の方は、この要援護者はこの人が連れていく、など1対1で決めていた。そういったのをケアプランの中に、初めからこの人はこの人に連れて行ってもらうなどを検討してもいいと思う。

塗師高齢・障害支援課長：今お話しいただいたような取組をできているところもあるかもしれないが、発災時になると、それぞれの家庭の事情や、ケアマネジャーや訪問看護師の事情もあるので、そこまで対応できていないのが実情だ。

(2) 令和元年度泉区区民意識調査について（報告）

意見なし

(3) 道路整備事業の進捗状況と今後の取組について

梶村議員：環状3号線のうち先行取得しているところは整備を始めると聞いたので確認したい。

洞澤土木副所長：中田地区については、都市計画事業認可を取得するため、測量を始めると聞いている。道路局と情報共有しながら取り組んでいきたいと考えている。

梶村議員：高低差があるので、その辺もお願いしたい。また、赤坂橋のUターン工事について、片側だけだと左折しかできず、地元が困るのでは

ないか。

洞澤土木副所長：そういったこともあるので、放っておくと赤坂橋のUターン橋の手前にある細い道を左に入って、信号を右に曲がるといった方法をとってしまう。そうすると地元の方も安全対策をどうするのか、という議論がある。現在、道路局で、左折しかできないところを右折もできるように道路改良できないか検討している。神奈川県警察との協議が整い、住民の方に了解をもらえれば着手する予定。

梶村議員：J A南総合センターの裏にある道路脇のU字溝について、埋める工事が進んでいるが、それはスクールゾーン協議会からの要望があったから対応したのか。

洞澤土木副所長：隣接地の所有者の方との道路付け替えの話が進んだことから、民有地であったU字溝部分の土地を市道として位置づけ、道路改良の一環で整備している。3月末までに完了できるよう対応している。

梶村議員：道路のことはわかった。和泉川健康みちづくりの河川整備についても、これから始まると思う。また、浸水対策として、緑園の子易川や中和田幹線についても、道路・環境創造局と情報共有しながら着実に進めていって欲しい。

洞澤土木副所長：中和田幹線については令和2年度の着手に向け、環境創造局とともに地元説明等を行うなど準備を進めている。河川整備や浸水対策について、引き続き、関係局と連携しながらしっかり取り組んでいく。

麓議員：ここに記載されている事業については、着実に進めていただきたい。萩丸の交差点は信号も設置され、きれいになっていると実感している。

水道管の工事をした際に道路の舗装をし直すと思うが、きれいに舗装されていないところがある。

洞澤土木副所長：私道の場合、土木事務所では対応ができない。市道に水道管を入れる工事は水道局が行っており、一度、仮舗装をし、全部終わった段階で、水道局が舗装復旧を行うことが多い。

梶村議員：電柱の地中化について、長後街道の途中まで、立場の方に向けてやっていると思うが、どうなっているのか。

洞澤土木副所長：今年度、泉区総合庁舎前から和泉団地入口まで工事が完了した。和泉団地入口から立場方面については、鋭意設計をしていると

	<p>道路局から聞いている。準備が出来次第、道路局と一緒にやっていきたいと考えている。</p> <p>横山議員：新幹線に架かる橋について、老朽化している橋の一部は耐震補強工事をせずに撤去されることがあると聞いた。その場合、土木事務所が合意を取って撤去工事をするのか、またはJRが合意を取って撤去工事をするのか、どちらになるのか。</p> <p>山根土木事務所長：新幹線に架かる橋は10橋ほどあるが、橋は道路局が管理しており、順次、橋梁の耐震補強工事をやっている。</p> <p>横山議員：一部の橋については撤去の話が進んでいると聞いたが。</p> <p>山根土木事務所長：現段階では、そのような話は道路局からは聞いていない。順次補強工事を進めると聞いている。場合によっては、撤去することもあるかもしれないが、その際は道路局が事前に説明し、合意形成が得られてから進めることになる。</p>
備 考	